

MATSUDOING2050

意見募集②まとめ(公開用)

意見募集②に至る経緯について

「MATSUDOING2050」は、その名に「DOING」が付くように現在進行形であり、議論のプロセスと継続性がとても大切です。第6回ワークショップ(以下WS)及び成果発表会は新型コロナ感染拡大防止のため延期、もしくは中止という選択をせざるを得ない事態となりました。しかし、これまで積み重ねてきた議論をまとめるプロセスである第6回WSの重要性を鑑み、オンラインという形式でWSを継続させる選択をしました。また、その後のコロナ禍の世界全体への蔓延は、大きな社会変容をもたらし、皆さんの生活や仕事、そしてまちづくりにも大きな影響を与えることが明らかになり、当然のことながらWSのまとめに、その影響を考慮する必要あると考えました。このような背景の中、皆さんの議論に、専門家による知見を盛り込み作成したものが「まちづくりデザインマップ003案の作成」、「専門家からの提案」、「意見募集②の投げかけ」です。これまでの5回の議論の積み重ねを踏まえた上で、大きな社会変容を受け容れられる柔軟性を持たせ、持続性を持つまちづくりにつなげることを目指しています。

*

Q1. 専門家からの「5つの問いかけ」についてコメントをお寄せください

- (1)「まちなかのサービスと空間は再定義されるべきではないか」
- (2)「まちはそこにしかない繋がりで運営されるべきではないか」
- (3)「まちの公共空間はONとOFFの切り替えが大事なのではないか」
- (4)「郊外のまちの価値は空間の余白にあるのではないか」
- (5)「まちづくりには動く余白が必要なのではないか」

Q2. 専門家からの「2つの提案」についてコメントをお寄せください

- (1)「(仮称)MATSUDOING2050 時空間ゾーニング」という全体の捉え方
- (2)戦略的拠点「(仮称)MATSUDOING2050 VOID」の設定

投稿数: 39/78 投稿率: 50%

※意見を複数個で投稿していただいた方の意見は1つにまとめています。

001-----

A1. 質問が大きくて答えにくいのですが、消費や生産性が低く、ゆるーい場所が必要なのかと感じます。ただ、余白を維持する余裕が持てるかどうかは課題ではないでしょうか。

A2. 新しいライフスタイルと、従来の生活を続ける方にも優しいものであってほしいと思います。

002-----

それぞれ、示唆に富んだ問いかけ、提案だと思います。総じて賛成ですが、これらがデザインマップ、あるいはその後の事業計画にどのように繋がっていくのか、イメージしづらかったのが正直なところです

003

ポスト2020..とても分かりにくい問いかけだと思います。ご提案は確かにそうだろうと思います。が、今までのワークショップやマップとの繋がりも感じられず何のために今までやって来たのか頭の整理がつきません。皆さんもそうだと思います。今回の提案は全て今のコロナの体験をもとに修正されていますがまだコロナは終息していません、終息後は全く違う価値観の世界になることは間違い無いですがどう変わるかはまだ未知の世界です。ポスト2020はまだまだ1年も2年も先にならないとやってきません。すでに先日の先生方のビデオとも今の状況や考え方も変わってきています。2週間でまた大きく変わるでしょう。今の状態でまだ来てもない、見えてもないポスト2020に主軸をおいた構想は危険だし考えられません。だからこそ動く余白を埋め込んで長期的な時間軸を取り込むことが大切ということは賛成です。ですが、今の段階でマップを作ってもどんどん状況が変わります。今は市民の意見を投影した今までのワークショップでつくったマップや意見を資料として残しておくにとどめ、最終案を出すのはもっと時間をかけるわけにはいかないのでしょうか。人類史上でも、かつてないような大きな変動なのですから。ここで今、形にしなくてはならない理由はないのでは、その理由がわかりません。

004

質問、支えるvoidの南側の市民サービスをささえる、とは具体的になんのでしょうか？教えてください。

005

わたしも質問です。今回初めて出てきたVOIDと言う言葉。それぞれの、動く。。オープンな。。支える。。それぞれが抽象的すぎてわかりません。もう少し具体的だったり、例をあげたりしてご説明いただけたら、理解がすすみ意見が考えられるかと思います。

006

A1. 自宅での「公」「私」の切り替えの難しさを実感しておりますので、仕事に集中できる居心地の良い公共空間が必要であるという点に賛成です。
A2. 今の状況を踏まえて考えていくというのは答えが出ず難しいかと思います。今後、テレワークのデメリットをカバーするような新たな働き方が出てくるかもしれません。変化に対応するための余白を設けるという考えはとても良いですが、漠然としており、なかなかイメージがしづらいです。

007

質問です。今回のマップへの意見の反映や今後のマップ修正について先生方の今後の作業のイメージや予定をお聞かせいただきたく思います。市民の意見を受けて今回作られたこのマップの調整をつつ肉付けしていく作業ですか？それとも肉付けすることはなくエリアや今決まっている目的？の文章などを調整していく作業ですか？

008

提案に関し、過去の議論からの取りまとめでの総括を非常にうまくまとめて頂いたと思いますし、新拠点ゾーンの北側、中間、南側もイメージがすごく理解出来、依り具体的なイメージが出来ます。問いかけ内容全ては、今後の検討項目として重要な示唆も含まれおり、この様な視点・観点から今後具体的に進めて行って頂ければと思います。

A1.

- 1) まちなかの空間の発想はいいのですが、今の段階では駅前の空間の定義は個々の土地やビルの持ち主によって変わるのではないのでしょうか。
全体に変えるのであれば個々の所有者の了解を得ることが先ではないのでしょうか。松戸市に所有者との話し合いの準備はあるのでしょうか。
- 2) 同館です。
商店は地元の人達の支持がなければ続ける事ができないので個々のお店を駅前から変える事は直ぐには難しいでしょう。
- 3) 現在の市民会館の様な物が必要になると思います。
公共空間として市庁舎のビルの中にあると便利でしょうね。
- 4) 松戸は都心には無い空間がたくさんあります。その空間やそこに行く道路を整備して下されば素敵な街になる様な気が致します。
- 5) 30年後の松戸を見る事は私には出来ないと思いますので、移り変わる様子を少しでも長く見ていたい気持ちになります。

A2. 新拠点ゾーンは松戸市が自由に造る事が出来る場所ですので横張先生はじめ先生方の素敵なデザインを早く見たいですね。

新拠点ゾーン(3ヶ所)のデザイン私大で駅前のデザインも変わってくると思います。又、駅から新拠点への通路によっても駅前のビルのデザインは変える様になるでしょうね。

松戸駅前ゾーンは30年後の完成まで、今回のWSのように市民との話し合いの大切さを市役所の皆様に理解して頂きたいと思います。

人と人との話し合いで心が通じればどんなに難しい事でも必ず成功すると思います。

期待しています。

皆様、コロナに負けない様に頑張ってください。

参加者からオンラインでいただいたコメント(別紙)とありましたが、これが見当たりません…。
いただいているのでしょうか。

A1. (5)まちづくりには動く余白が必要なのではないか

長期的な時間軸の中で余白のようなものはあってもよいと思います。

災害時の防災拠点や避難所として活用できたり、お祭りやイベントができるスペースであったりと何にでも活用できる部分の必要かと思います。

A2. 戦略的拠点(MATSUDOING2050 VOID)の設定

南側ゾーンの防災拠点ですが、近年は想定以上のことが発生することが当たり前となっております。これまでの災害等の事例への対策を十分に行い、事業継続のためにエネルギーや人(ボランティア等)の供給が常に継続されるような検討も重要かと思います。

北側ゾーンにおいても、用途はさまざまに試みの場として柔軟性を持たせる事に賛成です。その上で、土台となるインフラは、南側・中央ゾーンと連携しうる継続性と持たせ、非常時に生きる事を念頭に置いていただきたいと思います。

012

A1. 週末江戸川河川敷に散歩に行きましたが、好天気のおかげ、なかなかの人でした。スポーツ、楽器の演奏、読書、昼寝と行動は様々でしたが、今回ならPCR検査場としての使用など、異常事態時・災害時にはかなりのオープンスペース、余白？が必要だと改めて思いました。

013

現在本来ならイートインの飲食店がテイクアウトやお弁当の販売で頑張っています。このような情報をまとめて発信したり、クラウドファンディングを募るサービス？サポート？がかあってもいいかな？お役所仕事や診察、薬の処方もオンラインが普及していますが、対応しきれない年配の方もたくさんいます。オンラインサポートオフィスもほしいです。

014

A1. 今回の「問いかけ」は私のような「素人」には大変難しく感じますが、期待されているような応答になるかどうか分かりませんが以下申し述べさせていただきます。

- 1) 今回の「コロナ問題」の衝撃を受け止めれば「駅周辺で提供されるサービスや空間の使い方も変わる」ことには全面的に同意致します。
- 2) 「まちはそこにしかない繋がりや運営されるべきではないか」との問いかけは、直ちに(1)への応答と絡み、資料③に示される時空間ゾーニングにはとどまらず、松戸市全体の再設計という課題となるのではないのでしょうか(例えば、「21世紀の森と広場」や計画される新松戸駅周辺の再開発問題とも絡めて)。
- 3) 「公共空間におけるONとOFFの切り替え」の問題をこの限られた紙幅で述べることは私の手に余りますが、
- 4) (4)「空間の余白」をどう考えるかは、上の(2)の応答と重なると思います。
- 5) 「動く余白」については、「問いかけ」が余りに抽象的であり、応答が困難とする他ありません。

以上、現在の「コロナ問題」状況で自分と家族と家計を守るに精一杯の中、応答としてはまことに不十分なものとならざるを得ませんことご賢察の程お願い致します。

A2. 今回のワークショップの課題設定の範囲では専門家の方々の「2つの提案」自体に特段の異を唱えるものではありません。しかしながら、Q1の問いかけにも感ずることですが、現下の「コロナ状況」の中でかような「超高度」な問題を私どものような素人に問いかけること自体に違和感を禁じ得ません。

少なからぬワークショップ参加者は、こうした間にも着々と新拠点ゾーンの再開発を進めるだろうと(むしろ疑いの念をも抱きつつ)想像しています。そのような疑念を抱かせること自体に今回のワークショップが抱える問題ではないでしょうか。

第1に、このように市民を参加させ(そのように市の職員を「市民の立場」で参加させるも名も明かさなかったという手法もあり)「夢」を描かせておきながら具現化に伴う市の財政問題には触れないという進め方。

第2に新拠点ゾーンには、市庁舎新築という腹案がありながら、それとは無関係とするワークショップの企画説明の仕方。こうした市民の疑念や不信を拭うプロセス設計に果してなっていたのか、という「問いかけ」を発したくなる、というのが正直な気持ちです。

今回の論議の結果をもって、相模台への市庁舎新築に関し、市民の同意を得たとすることはご勘弁下さい。

015

相模台エリアに市庁舎を建てたいという意見はワークショップ前半ではでなかったです。後半4回目には何故か建てるのが前提の発言をされた方が複数人あり非常に驚きました。何故なら前半はむしろ市庁舎は一等地に建てるべきではないという意見が多かった。ネット時代、少し離れた現在の場所がベストと思います。同意見が多かったと思います。

市庁舎についてはまったく討論されておらず、市民の意見なしに、建築を進めないでください。市庁舎のことを進めるなら、ここでもっとみんなの意見を聞いてからにしてほしい。

016

A1. 駅周辺だけが賑わう街づくりではなく散策しながら歴史と文化を感じることが出来る魅力ある街づくりを望みたい。

宿場街として発展してきた旧水戸街道は商店が建ち並び店主や職人たちが店先で腕をふるい仕事をしてきた街道であり、また寺院も多く、散策ルートとして江戸川、坂川、戸定公園、松戸神社等を練りこみながら松戸の魅力を探ってもらいたい。

その為には舗道(歩道)を広げ歩き易くすると共に車の規制も必要と考える。

※参考 我孫子の文学散歩は、自然に囲まれた手賀沼の斜面にかつて居住していただろう文芸人の居宅跡をめぐるコース、想像をかりたてられる。

A2.

① 駅東口の再開発を進める

駅東口の駅前広場はタクシーの乗り入れだけの狭い状態。人の動きに安全性が保たれていない。また、バス乗り場も離れているため不便である。バス・タクシーの乗り場を整備し、安全に移動するためにも再開発は必須である。

② 駅デッキを拡張し南北ゾーンへ移動できるルートを確認できないか

017

資料②へのお伺い

- 資料②リード文の(別紙)(別紙)はどうすれば把握できるでしょうか。
- 改めて、「まちづくりデザインマップの位置づけ」を教えてください。
- 001 案、002 案、003 案、004 案、各案の違い(役割)は何ですか？
- 「問いかけ」と「提案」の関係は何ですか？それぞれの意図は何ですか？

資料②への意見

- 「参加者の皆様から」と「専門家から」の両方へ意見交換をしたいと思います。

「5つの問いかけ」

お伺いならびに意見を持つ者としての内容です。御了承ください。

- 1) 過去と未来を受容するas well as という多様な選択肢を思考したい。
- 2) 「松戸なればこそそのニーズに応える」つながり経営や共同体経営も誘導したい。
- 3) 死する公共空間からの転換として私的利用を許容するon・of こそ議論したい。
- 4) 高密と低密、台地と低地のコントラストを繋ぎ体感できる土地利用と交通計画。
- 5) 「動かない余白」広場150m×50m 程を確保し、外周路の「動く」とは区切る。

「2つの提案」

(1)について

- (マップ参照)はどうすれば把握できるでしょうか。

- 「互いに支え合うような関係」「計画的な使い方」「暫定的な使い方」をもう少し語って頂けませんか。ここに重要な論点があると思います。
- 大中小のスケール設定は、「話題としようとする内容を共有しやすくするために設定するもの」と思います。
- (マップ参照)を把握できればもっとわかるのかと思いますが、スミマセン。

(2)について

- 進行形という表現で「プロセスを計画する」という姿勢であれば大賛成です。
- VOID は良い論題と思います。土地利用、人の密度、精神世界などVOID の多義性を活かしたいとも思います。
- 松戸は、南の「空のVOID」北の「河のVOID」という天与の資源に恵まれています。「空河のまち、まつど」です。
- 提案にあるVOID は、天与の空河のVOID への「付けの論理」を備えてほしいです。
- 北側のゾーンには、ペデから坂川までの既存道路と東側の3つのブロックをVOID化して「北のアゴラ」とする。(参考、横浜大通り公園など)
- 南側のゾーンには、防災時HQ機能、平常時の市民と行政の協働機能などを備えたVOID(屋外&半屋外&屋内)化して「南のフォーラム」とする。(参考、長岡市庁舎など)
- 中央のゾーンは、北のアゴラと南のフォーラムを「つなぐVOID」とする。

以上、妄想も含めた意見をお送りいたします。

よく理解できていないシステムやプログラムを利用することに違和感があります。

018-----

現下の状況において先が見通せないのは当然だと思います。しかし、だからといって何もなくてよいということにはならないでしょう。おそらく提案されている「マップ」の意味がちゃんと理解されていないのではないですか？ 固定的なかたちをつくるのではなくて、空白をつくることがこのマップの意味だと思います。

019-----

藤村先生: 今日が意見書き込みの締め切りということですが、非常事態で心にVOIDがありません。相模台の中学校、小学校、保育所、学童に通う子どもたちが一ヶ月近く外出もできず仕事もキャンセルになり、公共の施設はすべて立ち入り禁止かお休みです。いけるのは土手くらい。。。コロナが落ち着くまで締め切りの延期を希望します。

Q2のMATSUDOING VOIDでは北側を動くゾーン、南側を防災拠点のゾーンとされていますがどうして場所が反対ではいけないのでしょうか。北側は聖徳大学に囲まれていて、個人的にはあまり開放的なイメージがありません。専門的な見解からこう決定した方がよいというご意見があれば、もう一度ご説明をお願いしたいと思います。

020-----

提案(2)について、空間の余白が、心理的な余裕につながる街づくりができれば良いと思いました。ただ、それぞれのゾーンが具体的にどのような場となるのか、イメージするのが難しかったです。

021-----

A1. 日本では東京一極集中の弊害が大きいと言われております。この「5つの問いかけも」このような弊害が起きないようにとの前提で提言されたのでしょうか？

もしそのような提言であるならば、松戸駅周辺の集中をなくすべき、松戸市全体の都市計画として、長期的将来を見越して再度、計画プロジェクトとして議論すべきではないでしょうか。本当に市民の望むものは何か、市民のコンセンサスを得る議論をし、じっくりと時間をかけてやる必要があります。

A2. MATSUDOING2050VOIDのネーミングのVOIDとは、無効、空虚、ガランドウなど負のイメージがあり感心しません、もっと良いネーミングをつけてください。

今回のコロナウイルス対処としてニューヨークのセントラルパークに急遽医療用テント群が作られたことをご存じでしょうか？このように市の中心部にある大きな公園が災害対策に大きく貢献できるのです。

松戸駅東側も同様に緑の大きな公園を作っておけば、災害時の大きな助けになります。なぜここにいわゆるHQが必要でしょうか？近くに立派な市役所があるではないですか。もう箱物の施設づくりはやめましょう、将来の市民のためにも。

022

新拠点ゾーンに市庁舎を立てる噂があるが絶対に反対である。今までのワークショップの内容や市民の声・提案に市庁舎新築はそぐわないことである。マップ案には南側に「市民生活をささえるとともに・・・」となっているが市庁舎ともとれることに危険を感じる。

新拠点ゾーンには幅広い年代が集える場にする為に緑を残した公園内に様々な文化施設を設ける。県外からも沢山の人が足を運んでもらうためにもシンボリックな文化施設である美術館や図書館を配置。美術館は建築的にも現代にも2050にも価値・魅力ある建築物にするべきである(例.豊田市美術館、十和田市美術館のような市立美術館)

防災に関してもそれぞれの文化施設に完備し災害時には新拠点ゾーンが防災拠点となる。特に美術館は大きな空間が確保できるためまさに動く余白となりうる。市庁舎を防災のために持ってくるという考えは市民の声と反しており、そのような討論は全くされていなかったはず。これからの時代市庁舎こそがIT化、多様化していくべき存在です。

023

■まちなかのサービスと空間の再定義について

街としては、これまでとは違うにぎわいが必要。「密」ではないけれど、そこかしこに人がいる。人が憩う場所がそこかしこにある。町全体が公園のような街。

公園のような街とは、例えば車が通る場所を減らして、歩行者専用道路が東西南北にあり、そこかしこに芝生や樹木、ベンチ、東屋があり、小さな飲食店やワークスペース、街に暮らすアーティストやクラフトのお店があり、お年寄りや子連れママにも実用的な休憩所(トイレ、給水所、授乳室)がある。休日はキッチンカーが並んでいるのも楽しい。

■そこにしかないつながりについて、市にはスモールビジネスを手軽にできる安価な場所を提供してもらいたい。空き家や空き地を安価で貸してほしい。地域に住む住民によるスモールビジネス。子ども食堂のように安価で、定年引退後には始めるような小さな飲食店があったり、若手のアーティストや作家がやる小さなショップがそこかしこにある。

また、スモールビジネスをはじめの人たちが長屋のように連なって、期間限定の小さなお店を試しに出してみる、そんなチャレンジできる場所があったらいい。空き家や空き地を使ったスモールビジネスの開業講座(ビジネススクール)と事業の公募。生涯学習の一環としての講座。コンセプトに合ったビジネスに対する金銭および開業・運営の支援。

024

NPOや福祉事業者、教育関係の事業者に対しては、空き地・空き家の活用を促し、箱ものをつくるだけではない市民を巻き込んだ街づくりをデザインしてほしい。まちをささえる人たちに居場所を提供していく。市から空き家所有者に対して、寄付した財産が公益目的に使われることが明らかな場合は非課税であることも紹介して促進してほしい。

025

オンオフを明確に切り替えるためには、預けたいときにしっかりと預けられる施設と仕組みが必要。核家族化が進み、高齢化率が上がった社会の中で、本来ビジネスの中枢を担う30～40代が、家族の中だけで子育ても介護もする現在のモデルに限界があることは明白。地域の大人たちがつながり、ともに子育てをしていけるような場が必要。

地域の大人たち(行政・NPO・市民等)がつながり、ともに子育てをしていけるような場が必要。明石市が子育て政策に力を入れて、子育て世代がどんどん転入してきて歳入が増えている。真の「子育てしやすい街NO1」を目指してほしい。

「動くVOID」など新しいライフスタイルの中で、地域で子育てする試み的な施設を作ってはどうか。

地域で子育てする施設の試みとして、シェア金沢のような、高齢者と乳幼児、障がいを抱えたひとたちも地域の住民もいっしょくたに過ごせるような施設。あるいは、保育園と併設して公共のコワーキングスペースがあり、一時利用であっても気軽に子どもを預けられる場所があるといい。民間の事業者と連携し、収益をあげ持続可能な施設にしてほしい。

026

これまでのような単一目的の施設ではなく、自然と多世代が集まるような、機能と魅力のあるデザインが必要では。

そのため、市の予算を一定以上使った(公設・施設問わず)施設を新設したり改築したりする際には、どうあるべきかの指針が必要では。たとえば、ユニバーサルデザインや景観を含めた、理念ある指針。美しい街に。

027

買い物の在り方の見直し(サービスの再定義)・ソーシャルディスタンスや三密回避を考慮すると、スーパーより、市場や昔ながらのアーケード商店街のスタイルがよい。ふるさと納税の返礼やボランティアへの報酬の意味で、スーパーなどではなく商店街などで使える地域振興券を配布するなど、シャッター商店街とならないような仕組みも同時に必要。

028

5つの問い、ゾーニング、VOIDの考えともによく理解できました。新拠点にとどまらない、ライフスタイルそのもの、町全体の変容を今後も柔軟に「余白」に取り入れていく必要がありますね。

029

これまでの議論を踏まえた上で、新しいライフスタイルを支える新しい空間像というのが、どのようなものが出来上がっていくのか非常に楽しみです。

ぜひ、今後も継続して、市民を巻き込んだ形での街づくりを進めていただければと思います。前回意見にあった、資源やスキルを持ち合って、市民が「作る」工程にも参加できたら面白いですね。

030

第3の居場所として「リモートワークの場になったり仕事のヒントをもらえる場所」というのは共感できます。松戸は都内勤務者のベットタウンという面もあるため、職場と自宅の間(駅付近)に居場所があったり、そこで新しい働き方が見いだせたりするような取り組みを期待します。

031

まちの中に余白を作るというお考えについては、余白の場所は相模台よりも地権者が絡み難しいかもしれませんが松戸駅の東口駅前をまずは検討した方が良いように思います。現状では東口の建物が密集した中では人の密集は必然とおきてしまうと考えますし、歩きづらくどこに何があるかわからない状況です。

駅前に余白を作り、開けた景色の中で奥の相模台の目的地に向けて歩みを進めていくという人の流れになればまちとしての魅力が上がるように思えます。

032

A1. (1)(2)(3)(4)(5)全て抽象的すぎますがその通りです。

A2.

- 1) マップはワークショップの最初からの皆の意見とほぼ変わらない為いいと思います。
- 2) VOIDの設定については余白の時空間が必要ということは確かですが3つのゾーン分けや目的について詳しく説明をお聞きしないと答えできないので以下質問しますのでお答えをお願いします

質問① 先ほど書きましたが3つのゾーンの説明が抽象的すぎる為、何故このようにわけたかと北側、中央、南側位置付けの意味を詳しくご説明お願いいたします。特に北側の市民生活を支えるゾーンというのが市庁舎を指すのではと不安です。またポスト2020とありますがまだコロナは終息していないのでここで今こう書くのは反対です

質問② このワークショップの着地点とマップを何に使うのかの目的と位置付けを教えてください。それがわからないので市民の不信感に繋がって今回そのような意見が多いのではと感じました。私たちもかなり貴重な時間を割いてボランティアですが真剣に街づくりに向き合っています。今回色々勉強させて頂きましたが他の街ではそこが明確です

質問③ 第一回ワークショップの横張先生の最初のご挨拶で「このワークショップは市民と行政を繋ぐ為のもの、自分は逃げないし信用して欲しい」とお話しされて感動しました。どの様に行政と繋げて下さるのか知りたいです。またその際、成果物が最後のマップになってしまうのでしょうか？途中で出た意見やマップの位置づけを教えてください

意見① 市庁舎は今後ITなどの進化によって分散化した建物でよく、中央に大きなハコモノは必要ないと思います。コワーキングスペースもありで、これこそ流動的なものが要求されるのでは。他の方からも意見がありました。新拠点に新市庁舎は私もいらなないと思います。ワークショップでもそういう意見が多かったと思います。

意見② ポスト2020とあるが今回はまだコロナが収束していないのでまだ先が予測できない為あまりそこに焦点を当てた結論を出すのは早急だと感じます。もし今回のマップが最終的な

資料となるのであればなおのことコロナ中間地点で世の中がどう変わるかも分からない中で結論を出すのは皆の労力も無駄になるのではと感じます

意見③ ワークショップでは段々に新しいマップに繋いでゆくのではなくその時その時のテーマで新しいマップを作っています。が前半3回で作った皆の力の結晶のマップはとても大切だと思うのですが、ホームページには見当たりません。今までのマップもホームページ上に残してほしいです。最後のマップ1枚が成果物になるのは違う気がします

意見④ コロナを経て時代が大きく変わろうとしています。その中で今言える事は今ある自然や歴史的に大切な物を保管し最大限生かし、後世の人にきちんと残すことだと感じました。宝物を繋いでいくことが一番大切なことです。そして私たちが今新しく作るとしたら(例えば建物)2050にも価値があるものを作ることです。

お願い① 江戸川と坂川の開発を希望する意見がワークショップで結構でたのでお話したかったのですが機会を得図でした。皆さんご存知ないかもしれませんが30年以上前から計画があり市民と市で何度も話し合い苦労し、やっと整備が完成するには20年以上かかり、とても綺麗になりましたがそこで終わってしまい継続していません

今回のプロジェクトは江戸川、坂川のようなプロジェクトになってはいけません。その為には今後市民も一緒に考えられるシステムが必要になると思います。今回ワークショップが終了後市民の声が行政に反映できるシステムをどのような形に残されるとお考えになっているのかお知らせくださいそれでは不安でなりません。

坂川春雨橋近くには最近親水公園もできました。これは市民が始めた献灯祭りがだんだん大きな力となって実現した公園です。市民と市と一緒にすることがどんなに大切かと思います。

お願い② ちは旧水戸街道沿い春雨橋近くにあります。ここに住んで64年で30年前に家を建て替えました。その際2メートルほど道路から下げて建てています。道路沿いの家は皆そうです。都市計画が入るのでもし下げずに建ててしまったら建て替え等の補償が出ないということでした。

先生方も街を歩かれると気がつくと思いますが古い家は道ギリギリに建っておりますが、35年くらい前に建て替えた家はだいたい下げて建てています。一体何のために下げて建てたのか？無駄でした。この都市計画について知りたいです。

お願い③ 「専門家からの2つの提案」の「(2)戦略的拠点」の説明の文章で「今回皆さんから、市民の活動の場を支える文化施設やギャラリーなどの機能望む声」となりましたが、私も含めて「美術館」という意見が複数ありましたが、美術館とギャラリーは大きく違うので美術館としていただけると嬉しいです。よろしく願いいたします。

お願い④ 現在松戸市の宝物である美術的コレクションや図書館の本(こちら素晴らしい)が、洪水の災害にあった時に危険にさらされる場所に保管されています。どうかこれを守るためにも一刻も早く安全な場所に保管できるよう行政に繋いでください。どうぞよろしくお願い致します。以上、長くなりましたがよろしくお願い致します

033

「余白」ということについて、余白を今後広場的な使い方をされる土地だとすると、例えば同じ面積でも大きい余白が1つあるのか、小さな余白がたくさんあるのか、線状なのか、面的なのか、ワークショップのなかで余白と出てきたことはなく、松戸のなかでの空間の余白というもののイメージを具体的にどう捉えたらいいか考えています。

034

抽象的な、だけど的を得ているようなこの問いかけ・提案のなかでワークショップの着地点が見いだせないというのが本音です。もう一度じっくり考える場をつくっていただけないかと...

035

コロナのこともあり、日常と非日常を上手く使い分けられる公的空間があることがとても有意義であると感じるようになりました。意識が変われば暮らし方も変わるはず。5つの問いかけは、松戸でなくても当てはまるものだと思います。それをどう「まつどらしさ」へとデザインに落とし込んでいくのか？30年後、自慢できる街になっていますように。

036

2つの提案について、(1)の「時空間ゾーニング」という捉え方はもう少し説明が欲しいところです。確かに時間をかけた戦略が必要だとは感じます。いずれにせよ各ゾーンがシームレスに繋がるようなものであるといいなと思います。街そのものが公園であるような、回遊性を高める緑や花があふれる安全な道(歩道)づくりもお願いしたいです。

037

A1.

1. 公が担うか私が担うかはあると思うが、サードプレイスはこれからより重要だと思う。
2. 地元の人がつながる、地元の人が喜ぶという視点は大切だと思う。外から訪れる人も意識すべきだが、一番重要なのはそこに暮らす人かと思う。
3. ITが進み便利な反面、一人の時間が少なくなったり時間に追われるように感じたりすることも多い。サードプレイス、自由な空間が欲しい。
4. 余白は必要だと思う。無駄に思えても普段自由に使える場所が避難場所になったり、オンとオフで使い分けができるゆとりは豊かさにつながると思う。
5. 働き方などいろいろなことの過渡期だと思う。今後決める部分という時間の余白も必要だと思う。

A2.

1. 説明があまり理解できていないが、大きいエリアではしっかりした計画、小さいエリアでは試行的に事業をしていくということなら賛成。
2. 大筋で賛成。今と同じまま庁舎を移し替えるのでは意味がないように感じるかもしれないが、共有スペースや防災機能、民間との協働などがあれば駅近くの高台にあることは意味のあることだと思う

038

松戸駅を利用しようとすると、自宅からは車かバスになります。バスを利用したいところですが、大回りで時間がかかるし、東口は駅に直結ではないので不便です。駐車場や駐輪場問題も含め、各ゾーンを巡回バスが走るとかグリーンスローモビリティを活用するか公共交通の対策も合わせてお願いしたいです。

039

A1. 全体的に賛成です。ただし(3)のON・OFFの切替えについては、各人の公私の時間をいうよりも、それぞれの人がそれぞれいきいきと時間を送れるという概念の方がこれまでの議論に

近い印象があります。(働き方もプライベートの過ごし方も、人によって時間や場所の使い方は大きく異なっているため)

(5)について、『長期間的な時間の軸の中で変化を受け入れる』とありますが、受動的な印象があります。MATSUDOINGに象徴されるのは『自分たちが創りだす』という意味の方が強いため、自分たちで作りだすことができるための余白が必要ではないかと感じます。

A2. (1)の時空間ゾーニングは抽象的過ぎて、少し分かりづらいです。(2)について、『活動や経験をシェア』できるという概念は賛成です。様々なライフスタイルの人々、どの人にとっても自然と集まりたくなるような仕掛けを建物にしていくことが、地域とのつながりが希薄している現代にこそ必要だと感じます。